真壁町（まかべ）

1. 沿　革

この町は水戸線上岩瀬駅から筑波線で約20分、真壁郡の東部に位し、東は新治郡八郷町に、西は協和村、明野町、北は大和村南は筑波町にそれぞれ隣接し、筑波、加波の連峯が東部を南北にわたり、その西側の平坦な沃野に昔から開けたところである。昔この地方は新治国に属していたが延暦3年5月に真壁郡となり、真壁長幹が承安2年(780年前)に真壁城を築き、秋田へ去るまで約17代 400年余善政を布いたが、その後笠間藩の外領であつたため、明治維新直後は笠間県となり、明治4年に茨城県に編入された。昭和29年11月には長讃村の一部を編入し、さらに同年12月1日には隣の紫尾、谷貝、樺穂の3村と合体して、面積63.59平方粁、人口(昭和32年5月毎月人口調査)23,358人（男11,209、女12,149、）世帯数4,214を有する大きな町になり、今や産業、経済、教育、観光の中心地として大きく浮び上つたが、各地区の住民の融和をモットーとして平和な新町建設のためにまい進している。

2. 産　業

まず農業面を見ると、農家数2,344、農家人口14,887人(男7,098、女7,789、)耕地面積2,136.8町(田1,069.2町、畑1,034.9町、樹園地32.7町）、山林2,593町を有している。中でも大麦 434町、小麦513町、大豆241町、たばこ143町、なたね87町にのぼつている。町としても従来の主穀中心主義の経営から園芸作物を取り入れたり、酪、農養豚を奨励して、農業経営の多角化を促進している。特にたばこの収入は1億9,000万円にのぼり、また従来の在来みかん栽培から本県唯一の温州みかんの試作に成功して、4,5年先には7町歩の成樹が育成される由。次に畜産面を見ると、乳牛63頭、役牛491頭、馬759頭、めん羊41頭、山羊258頭、豚639頭、兎348頭、にわとり12,739羽あひる34羽を有し、次第に農業の有畜化が進んでおり昭和31年度から新農村建設指定町になつている。そのためみかんの品種改良、製茶共同加工施設の拡充、養豚組合の育成強化、種豚の購入、ポーキサイドの使用による老廃田の若返り、畑地かんがいの奨励、排水および耕地の整備などを推進して、経営技術の改善向上と農家収入の増加を計つている。次に農機具の普及状況を見ると電動機676台、石油発動機405台、動力耕うん機13台、〃脱穀機1,021台、足踏脱穀機393台、動力籾すり機546台、〃製粉機143台、〃精米機363台、〃精麦機7台、動力噴霧機9台、人力噴霧機356台、動力撒粉機11台、〃製莚機13台〃製縄機244台、足踏製縄機327台、畜力カルチベーター168台、畜力水田中耕除草機11台、畜力砕土機239台、動力いも糠飼料機2台、人力〃2台、畑用播種機39台、畑用畜力すき410台、水田用畜力すき1,378台、家畜用いも切機1台に達している。また養蚕農家は141戸、年間収繭高4,512㌔となつている。次に工業面を見ると、工場数125、従業者817名、年間製造出荷額4億7,561万円にのぼり、中でも花の井、紫山、公明、正気などの日本酒(年産3,500石)をはじめ、土管、陶管、かめ類、かまど、石細工品などの生産が非常に多く、今後における中小企業の発展が注目される。また商業面を見ると、法人および常用労働者を有する商店43、従業者数208名、年間販売額3億8,572万円、常用労働者のいない商店378、従業者数651名、6月中販売額2,139万円に達しているが、食料品、衣服類、石細工品、紫山焼物などが多いようである。また筑波、足尾、加波の連峯に埋蔵されている花崗岩は無限といわれ採掘業者は大小合せて 140事業所、年間生産額は4億5,000万円にのぼり、国内は無論遠く米国まで輸出している。

3. 教育文化

ここには小学校4、中学校3、高等学校および各種学校があつて、小学児童 3,302名（男1,657、女1,645）中学生徒 1,615名（男817、女798）、高校生徒 792名（男514女278）、各種学校生徒57名を有し、この地方における教育の中心地である。特に合併とともに学校の統合強化、施設の整備拡充を取りあげ、まず昭和31年11月に桃山地区へ南中学校（組立式鉄筋コンクリート造二階建、総建坪508.2坪）を総工費2,200万円で着工し、去る5月に竣工したが、さらに今年は450坪の校舎を3,035万円で増築する由。また北中学校は焼失した谷貝中学校の復旧を兼ねてなるべく早く建設する計画を持つているそうである。公民館の活動も活発で、婦人学級、社会学校は文部省指定に、紫尾女子青年学級は県のモデルとなり、冠婚葬祭の簡素化、時間の励行、衣食住の改善、保健衛生、洋裁、生花、映画、レクリエーションなどを行い立派な成績を収めている。消防施設も年を追つて拡充強化され、自動車ポンプ5台、三輪車〃2台、手引〃6台、可搬式〃4台、腕用15台、貯水池34、消火水槽12に達し、3カ年連続で表彰を受けている。国民健康保険組合も本年12月までに全町加入の運びとなり、町営火葬場、塵芥処理場の整備を計つている。ここの保育所は園児150名に達し、季節的保育所も大変好評を受けており、中学校の通学道路も6線を新設しようとしている由。名所旧蹟としては富松正安を盟主とする加波山の義挙で知られる加波山、万葉集に歌われ三宮足尾神社のある足尾山、県下有数の古刹で文示5年に法身口師が開いた伝正寺、鎌倉建長寺の末寺である安楽寺、一辺上人が開いた常示寺、真壁城址があり、徳川末期の陶器紫山焼は真壁の陶工市塚紫山が創始したものである。

（新築成つた真壁南中学校）

4. 財　政

昭和32年一般会計歳入歳出予算　（単位円）

歳入	町税	地方譲与税	地方交付税	公企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	合計
	44,586,460	100	14,500,000	357,575	403,550	3,506,880	1,130,180	1,637,760	10	500,000	721,120	67,343,635

歳出	議会費	役場費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
	1,443,660	16,510,030	6,084,080	6,638,590	10,397,721	2,789,650	1,711,400	8,980,963	505,425	198,500	137,340	1,139,964	9,187,674	1,618,638	67,343,625

村の横顔

谷和原村（やわはら）

1. 沿革

この村は常総線水海道駅からバスで約15分、筑波郡の南部に位し、北は谷田部町、東は伊奈村、西は小見川を境に水海道市、南は北相馬郡守谷町にそれぞれ隣接している純農村地帯である。この地方は昔常陸国谷原領3万石に属し、寛永2年頃治水水利事業の先覚者伊奈半十郎忠治によつて開墾されたところで、福岡堰は寛永11年に完成し、同12年に江連用水を開き、この地方農村開発に努めた功績は実に大きかつたそうである。昭和30年3月1日に谷原村を中心に隣の十和、福岡、小絹の4カ村が合併して、面積34.44平方粁人口11,610人（男5,605、女6,005）、世帯数2,007を有する（昭和32年5月毎月人口調査）新村として誕生し、県南地方における主食、野菜類の供給地として、村民の融和協調、福祉増進をモットーに力強い足どりを示し、近い将来には明るく住みよい新郷土が建設されることであろう。

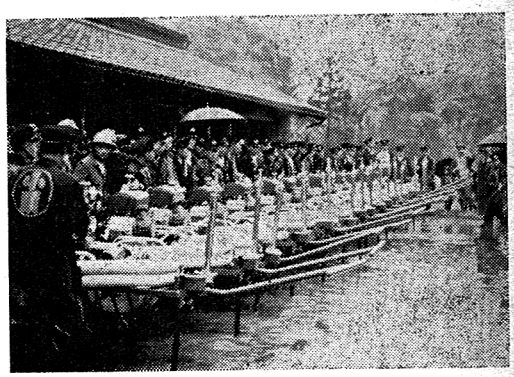
2. 産業

まず農業面を見ると、農家数1,562戸、農家人口9,477人（男4,623、女4,854）、耕地面積1,985.8町（田1,154町、畑800.5町、樹園地32.9町）、山林400町を有している。中でも、大麦410町、小麦180町、なたね120町、大豆212町、さつまいも328町、すいか85町などが多いようであるが、この附近の産米は非常に良質で、上米の名産地といわれる。村としても生産組織の強化育成のために、土地改良事業を推進して、耕地整理、用排水施設の整備を行い、多角的な農業経営の振興を企図している。特に土地改良事業は昔から県の指導と直営によつて促進され、十和地区100町歩、福岡地区90町歩の改良田が、改修された福岡堰を中心とした満々たる用放水路によつて美しい実のりを見せることだろう。また蔬菜類、畜産物の共同出荷組合結成を急いでおり、農家の現金収入増加を計ろうと計画している。

次に畜産面を見ると、乳牛6頭、役牛865頭、馬174頭めんよう75頭、山羊115頭、豚650頭、兎335頭、にわとり10,475羽を有し、特にめん羊飼育奨励と豚、鶏卵の増産に重点をおいている。また農機具の普及状況を見ると電動機795台、石油発動機315台、動力耕うん機20台、〃脱穀機972台、足踏〃218台、動力籾すり機733台、〃製粉機345台、〃精米機76台〃精麦機29台、動力噴霧機19台、人力噴霧機386台、動力撒粉機26台、〃製莚機33台〃製縄機332台、足踏製縄機722台、畜力カルチペーター831台、砕土機467台、動力いも糠飼料機8台、人力〃3台、畑用播種機938台、畑用畜力すき402台、水田〃545台、家畜いも摩砕機9台、いも切機12台に達し、次第に農業の機械化、畜力化が計画されている。また養蚕戸数は170、年間収繭高は8,319〆に過ぎないが、昭和32年度から新市町村建設モデル村として指定され今後の発展が注目されている。次に商工業面を見ると、法人および常用労働者を有する商店6、従業者36名、年間販売額6,385万円、常用労働者のいない商店103、従業者166名、6月中販売額495万円、工場数15、従業者39名、年間製造出荷額1,037万円程度に過ぎない。

3. 教育文化

ここには小学校4、中学校2あつて、小学児童1,627名（男819、女808）、中学生徒564名（男282、女282）を有しているが、常に学校施設の整備拡充を行つており、30年には谷原小学校（220坪）、31年には十和小学校（207坪）谷原小学校（180坪）などを総工費1,608万円で改築し、32年度には小絹小学校を改築することになつているとのこと。また本年から村内38部落間の連絡協調と広報活動の徹底を計るために有線放送設備を総工費600万円で行うことになつている。また合併とともに村内道路の改修を行うべく、トラック1台を常設して毎年300～600万円を投じて全村砂利道の夢を実現しようとしている。消防施設も次第に整備されており、動力ポンプの増設を行い可搬式動力ポンプもすでに19台に達し、貯水槽も35にのぼり、さらに用水池、溜池、流水を整備して消火水源の確保に努め、県内でも優秀な実績を収めている。国民健康保険組合は漸く本年度から全地区一本の形で発足するように村費をもつて160万円を予算化し、村民の衛生思想の普及向上と医療費の軽減を計ろうとしている。名所、旧蹟としては、親鸞上人の遺跡のある聖徳寺、五輪の塔で知られる大楽寺や茨城百景の一つである稲岡堰などがある。



（消防ポンプ）

4. 財政

昭和32年度一般会計歳入歳出予算　（単位円）

歳	町村税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	合計
入	20,075,400	9,500,000	3,874	142,500	1,053,500	507,000	1,000	1,695,065	84,500	33,062,839

歳	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	1,585,751	9,274,586	2,412,367	2,490,860	8,611,128	451,827	491,000	3,837,840	73,874	182,500	75,900	1,009,298	2,265,908	300,000	33,062,839

新市町村の横顔

水海道市（みつかいどう）

1. 沿　革

本市は常磐線取手駅から常総線に乗換えて約30分、本県の西南部に位し、鬼怒川をはさんで西は飯沼川を境に岩井町に、東南は小貝川を隔てて筑波郡と北相馬郡に隣接している。この地方は昔下総国豊田郷荘や相馬御厨に属し、鬼怒川、小貝川の流域に開けた沃野に昔から栄え、地方文化の発祥の地で県南地方における政治、経済、文化の中心地を物語る幾多の名所旧蹟に富んでいる。昭和29年7月10日に隣の豊岡、菅原、大花羽、三妻、五箇大生、坂手村の7カ村を編入して同年7月11日に市制を施行し、30年3月31日に筑波郡の真瀬、谷和原の一部を31年4月1日には北相馬郡の内守谷、菅生村をそれぞれ編入して、面積79.84平方粁、人口39,739人（男19,220、女20.519）、世帯数7,256を有する（昭和32年5月毎月人口調査）田園都市として発足し、今や県南地方における産業、経済、教育、交通上の中心地として、また東京都の衛星都市としても明るい市づくりに立上り、今後の発展が大いに期待されている。

2. 産　業

まず農業面を見ると鬼怒、小貝の両川の流域を中心に肥沃な耕地に富み、農家数4,311戸、農家人口26,380(男12,729、女13,651、)耕地面積4,252.5町（田1,992.3町、畑1,968.2町、樹園地292町）、を有している。（昭和32年2月冬期農業基本調査）中でも大麦954町、小麦674町、大豆450町、さつまいも283町、たばこ143町にのぼり、農家の大きな収入源となつている。特に亜麻（12.3町）、わさび大根（6町）の試作に成功し、とうがらしやたばことともに栽培面積も拡大され今後の農家経済の向上に大きな役割を果すことであろう。次に畜産面を見ると、乳牛の74頭、役牛2,039頭、馬586頭、めん羊133頭、山羊319頭、豚1,595頭、兎1,501頭、にわとり、19,824羽を有しており、（昭和32年2月冬期基本調査）市としても種豚20頭を購入して農家の貸付に利用している。今後は各地区の養豚、養鶏組合の統合強化を計り、東京方面への共同出荷を計画している。また畑用灌水の井戸堀ボーリング機を1台購入し、簡易井戸の奨励と相まつて畑作物の旱害防止に全力を注ぎ、あるいは背負式撒粉機14台を病虫害防除用として各部落に貸付けている。ここには桑園286町、養蚕農家1,074戸、年間収繭高は実に58,572㌔に達していることも農家の大きな収入源として見逃せない。

次に農機具の普及状況を見ると、電動機1,127台、石油発動機1,243台、ハンドトラクター5台、動力耕うん機15台、動力脱穀機2,254台、足踏脱穀機834台、動力籾すり機950台、〃製粉機488台、〃精米機1,135台、精麦機59台、〃噴霧機37台、人力〃429台、動力撒粉機15台、製莚機22台、〃製縄機486台、足踏製縄機1,772台、畜力カルチベーター1,476台、〃水田中耕除草機119台、〃砕土機841台、いも糠飼料機12台、畜力いも糠飼料機5台、畑用播種機303台、畑用畜力すき1,637台、水田用畜力すき1,282台、家畜用いも摩砕機12台、〃畜力用5台に達している。（昭和32年2月冬期基本調査）次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する商店122、従業者701名、6月中販売額1億7,975万円、常用労働者のいない商店659、従業者1,132名、6月中販売額4,448万円に達し、中でも衣料品、食料品、雑貨の小売業が大部分を占めており、隣接の農村地帯を控え、店舗の改装、商店コンクール、包装紙の展示会、広員講座の実施や観光施設の改善などと相まつてますます発展が予測されている。また工業面を見ると、工場数100、従業者665名、年間製造出荷額5億1,245万円にのぼり、中でも食料品工業、セメント瓦製造業、製材業などが多い。そして市としては大工場の誘致運動を積極的に行つており、すでに某製紙工場の建設に着手している。

3. 教育文化

ここには小学校10(分2)、中学校7、高校2あつて、小学児童5,833名、(男2,918、女2,915)、中学生徒2,693名（男1,391、女1,302）、高校生徒1,967名（男889女1,078名）に達し学校施設の整備拡充と統合強化に努めている。また各種学校は7で生徒数は274名である。公民館の本館1、分館9を中心に婦人会、青年会が、校外補導、文化講座、技芸講習、生活改善、衣服および冠婚葬祭の簡素化などの運動を展開して大きな成果を収めている。また消防施設の拡充強化に努めており、普通自動車ポンプ3台、手引動力ポンプ10台、可搬式動力ポンプ3台、腕用ポンプ36台を有している。本市は鉄道、バス交通の重要な岐点として重要視されているが道路の改修も合併を契機として、舗装道路の整備をはじめ、トラック1台を購入して幹線道路の砂利敷を実施している由。また本年度から国民健康保険組合の全市施行を実現すべく市繰出金125万円を計上している。ここには名所旧蹟が多く、日本三天神の一つの菅原天満宮、千姫の伝説で有名な弘経寺浄土宗、親鸞上人の高弟性信の開いた報恩寺芝居、浄瑠璃、講談で有名な「かさね」の墓がある法蔵寺、関東唯一の元三大師の霊場として全国に知られる安楽寺などがある。また旧七夕祭、菊まつり、八間堀の桜、関東花火大会には近郷近在をはじめ、栃木県や東京方面からの観客でにぎわう由。

（七　夕　祭）

4. 財　政

昭和32年一般会計歳入歳出予算　（単位円）

歳入	市税	地方交付税	公営企業及び財産収入	分担金及び負担金	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	市債	合計
	62,952,100	41,844,000	437,000	1,200	1,378,000	22,095,600	2,304,100	1,028,000	440,000	1,000,000	5,500,000	138,980,000

歳出	議会費	市役所費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
	4,691,000	29,850,000	6,506,000	10,563,000	26,987,000	22,247,000	6,435,000	12,418,000	2,010,000	360,000	607,000	9,247,000	6,859,000	200,000	138,980,000

昭和32年度統計協力学校決る

県統計協会では、統計教育研究校の育成助長を計り、統計教育の徹底を期するため、毎年教育庁と協力のもとに統計協力学校を指定してきたが、昭和32年度は次の17校に決定した。

（小　学　校）

東茨城郡大洗町立大貫小学校
那珂郡緒川村小瀬第一小学校
常陸太田市立誉田小学校
北茨城市立精華小学校
行方郡玉造町立羽生小学校
稲敷郡阿見町町立阿見小学校
石岡市立府中小学校
筑波郡豊里村立今鹿島小学校
水海道市立菅原小学校

（中　学　校）

西茨城郡友部町立大原中学校
日立市立豊浦中学校
鹿島郡神栖村立息栖中学校
稲敷郡阿見町立阿見中学校
稲敷郡茎崎村立茎崎中学校
古河市立古河第二中学校
下妻市立下妻中学校
北相馬郡取手町立永山中学校

統計法施行10週年記念標語募集始る!!

終戦後調査統計事業の重要性が急速に高まり、統計の真実性を確保し統計調査の重複を除き、統計の体系を整備して統計制度の改善発達を図るために、統計法が昭和32年5月1日に施行されて、ここに満10週年を迎えました。

県統計協会では、本県における調査統計思想の普及向上に寄与するため、この意義ある年を記念して広く一般県民から統計標語を左記要領により募集いたすことになりましたのでふるつて御応募下さい。

要　領

1	標語内容	統計思想の普及向上を図り、調査統計事業の重要性を強調したもの。
2	応募資格	本県に居住する者に限る。
3	メ　切	昭和32年9月15日　（同日消印のあるものは有効）
4	応募方法	用紙は「官製ハガキ」を用い、枚数は制限しないが一枚一句とする。 応募者は必ず住所、氏名、職業、年令を明記すること。
5	送り先	**水戸市北三の丸　茨城県調査企画課内　茨城県統計協会**
6	賞　金	1位　1点　2,000円 2位　1点　1,500円 3位　1点　1,000円 佳作　5点　1点　500円
7	審　査	審査長は統計協会長が、審率員は統計協会役職員およびいはらき新聞社員がそれぞれ当る。
8	発　表	昭和32年10月中旬にいはらき新聞紙上に発表するとともに当選者へ通知します。